第 6.1 節　世田谷でも前後 11 回の空襲

2023 年 4 月　第 63 号

6.1.1 空襲被害者の証言

10 万人の犠牲者を出した 1945 年（昭和 20 年）3 月 10 日の東京大空襲は、世田谷区でも前後 11 回の空襲を受け、焼失家屋 12,000 戸、罹災者 46,000 人の犠牲者が出ています。特に 1945 年（昭和 20 年）5 月 24・25 日の山の手の大空襲では、池尻・太子堂・三軒茶屋は総なめに合い、旭小学校、多聞小学校、世田谷区役所は全焼、東大原小学校、三宿小学校は半焼の被害に遇いました。太子堂 4 丁目は殆ど燃えました。この歴史を風化させてはならないとの思いで、聞き取りをした記録をお伝えします。

○（Y 氏－太子堂 2 丁目）

国民学校（小学校）の時、下の谷で被災しました。太子堂小学校の子は殆ど疎開しましたが、私の親は子供を手放さず、一緒に暮らしていたのです。5 月 24 日の夜、焼夷弾が落とされ、周りが明るかったのを覚えています。夢中で太子堂小学校に避難しました。陸軍病院の白衣を着た傷病兵も避難していました。下の谷の辺りは強制疎開で建物は壊されました。

学校では薙刀（なぎなた）を習いました。竹の棒です。味噌味の蒸しパンの給食が有りました。配給は出征家族が優先でした。学童疎開後、残っている生徒はほんの少しでした。

○（H 氏－太子堂 2 丁目）

学童疎開には行きません。母の実家に疎開しましたが、1 週間で戻って来ました。庭に防空壕を掘りました。非難するもの、道具を入れるものなど、いくつか掘りました。最初の空襲の時、ご近状の方が入れて欲しいといらしたのを覚えています。最後には 4 畳半もある電灯を曳いた立派な防空壕を作りました。

5 月 24 日の空襲のことはよく覚えています。世田谷通りの延長上、敵の大編隊がやってきてザー・シュルシュルと ざるから黒いゴマでも撒く様に焼夷弾を落としました。丁度赤ん坊を生んだばかりの方も、うちに疎開していて一緒に三宿神社の方に逃げました。町は真っ赤に燃えていました。翌朝、帰り道で死体も見ました。日本軍の高射砲は敵機に届かなったのですが、たまに敵機が落ちると、憎き敵をやっつけようと、竹やりをもって駆け付けたそうです。

○（T 氏―下の谷）

下の谷－太子堂 2 丁目、4 丁目の茶沢通りの中ほどから入ったところに、下の谷商店街がある。下町情緒の懐かしい雰囲気の店が並んでいる。第一、第三日曜日の朝 9 時から 1 0 時まで朝市が立ち、賑わう。町と人々がつくり出す原風景とでもいったものが見られる一帯（せたがや百景公式紹介文の引用）。

太子堂小学校の学童疎開の荷物をリヤカーに載せて渋谷の駅まで運んだりしましたが、5 月 24 日は村山航空隊の少年兵でしたので太子堂にはいません。4 丁目に住んでいたのですが、帰ってみたら焼け出されていたので、2 丁目にやってきました。下の谷通りは片側が強制疎開で取り壊されていました。魚芳は残っていてよく電話を借りに行ったものです。

（O氏－下の谷）

私は、4 月に池袋で焼け出されて、母の住んでいた下の谷に移ってきました。大空襲の時は、昭和女子大の所は兵隊の場所だったから、あそこから焼けてきました。下の谷は低いから、焼夷弾や焼けた材木等飛んできました。もう死ぬかと思ったのです。そしたら、急に風が変わって命拾いしました。急に風向きが変わって真っ暗になったです。下の谷の池田谷さんの側は全部焼けました。爆弾が雨あられと降ってきて逃げようたって、逃げられなかったです。

戦争が終わって急に変わったでしょう。それまでは配給で何も売らなかったでしょう。木綿の晒しを一反買ったんです。それでお産したんです。食べ物も大変でした。米なんて 1 月に 1 合ずつでした。アメリカさんが缶詰をくれて嬉しかったです。だから私はアメリカを悪く言わないです。

○（K 氏－茶沢通り）

私はここで生まれたんです。空襲の時は、兵隊に行ってたんです。ここには母と妹がのこっていました。2 人っきりで守ってたのです。太子堂小学校は、長野県に学童疎開したのですが、妹は疎開しないで 5 月 25 日は八幡様に逃げたそうです。私は 3 月 10 日の空襲の片付けの手伝いをしていましたが、5 月 25 日の空襲にはあっていません。ここに戻ってきたのは 10 月の末です。戻って来た時は古賀さんとか、炒り豆屋さんとかぽつぽつお店が出来ていました。炒り豆屋さんの向こうが焼けました。府営住宅は残りました。衛戍病院にいく一郭だけが残りました。太子堂小学校は残りました。私は兄が戦死したので、3 年ほど修行して、親の跡を継いでこの商売を続けたのです。

6.1.2 三軒のお茶屋さん

「三軒茶屋」とは？　一説によると 1800 年前後から使われるようになり、徐々に一般的な呼称として使われるようになっていったそうです。

実はその昔、「三軒茶屋」にはその名のとおり、信楽（しがらき）、角屋、田中屋という 3 軒のお茶屋さんがありました。3 軒は、国道 246 号と世田谷通り、茶沢通りが交差する三差路周辺、現在の三軒茶屋交差点付近に店を構えていました。これら 3 軒のお茶屋さん周辺を中心に、徐々に街は賑わいを見せ、その地を「三軒茶屋」と呼ぶ人が増え、世田谷区が成立した 1932 年に正式な地名となりました。

三軒茶屋の名前の由来になったお茶屋さんが栄えていたのは、江戸時代中期。当時は現代でいうところの「旅行ブーム」のように、お寺や神社への参詣が流行っていました。そうした中で多くの人が目指

していた地の 1 つが、神奈川県伊勢原市大山にある「大山阿夫利神社」です。

当時のお茶屋さんは、お茶やお菓子だけでなく料理も出しており、お店によっては料亭のような店構えのところもあったとか。3 軒のうち、田中屋は宿泊所も兼ねており、敷地面積は 100 坪を超えていたそうです。現代の喫茶店やカフェとはまた違ったお茶屋さんの姿から、当時の賑わいが想像できます。

江戸時代に 3 軒あったお茶屋さんのうち、現存するのは 1 軒のみ。「田中屋」は、今も当時とほぼ同じ場所で「田中屋陶苑」の看板を掲げて、お店を開いています。お茶屋から陶器屋へと業態を変えながらも、三軒茶屋の歴史を現在にまで受け継いでいます。他方、角屋は明治時代に閉店。信楽は、「石橋楼」や「茶寮イシバシ」と名を変えながら 1945 年 4 月まで洋食屋や宴会場を営んでいました。しかし当時出された建物強制疎開令をきっかけに、長く続いた歴史に幕を降ろしたそうです。

東急電鉄三軒茶屋駅の世田谷通り口を出たところにある、「三角地帯」と呼ばれる一角。空襲被害に遭った同地は戦後間もなく闇市がつくられ、大きな賑わいを見せました。

（三軒茶屋駅前の三角地帯）

（渋谷駅前）（画像は Yahoo Japan から引用）

人生を豊かに（雑学のすすめ）

【茶屋と築地市場の関係？】

茶屋と言えば、京都の祇園に金沢の東の郭と粋筋の場所です。でも築地市場の河岸のおっさんたちの好物は、一にお金、二に女とお酒が相場だそうです。茶屋の正式名称は「買荷保管所」で、文字通り買い出し人の荷の保管所です。買い出し人は、仕入れた荷物を持ち帰ることもありますが、仲卸店の人に茶屋へ運んでもらいます。お茶は地区ごとに分かれ、客の荷物をまとめてトラックで届けるのです。トラックの出発時間は決まっていて、間に合わなければ自前の配達です。客の荷物に店の名前を記した茶屋札を添えますが、紙片なので風で飛ばされると誰の荷物かわからなくなります。

この茶屋システムは日本橋魚河岸時代に始まり、当時の運搬は大八車ですが、河岸の魚屋は入り組んだ細い路地に連なっているので、乗入が出来ませんでした。そこで河岸周辺に専門の預り所があり、それを茶屋と呼んだのです。今と同じ様に、買った荷は店から茶屋へ運搬していました。荷下ろしの一仕事の後でお茶を一杯振舞われたのでお茶屋と言われた様です。江戸時代から続く配送システムは今でも健在です。（福地享子氏から）

耳寄り情報　　本土急襲とカメラの関係

サイレンが鳴る。そのたびに、私たち日本人はモグラの様に地下に身を隠しました。そして、はるか上空を飛ぶ B-29 から無数の爆弾が降り注ぎました。70 年以上たった現在まで、国も信頼に足る網羅的な調査をしていません。

一体、日本国土はどれほどの空襲を受けたのでしょうか。特に注目したいのが、空襲・機銃掃射の瞬間を捉えたカラー動画です。例えば、戦闘機の翼に取付けた特殊なカメラ（ガンカメラ）が記録した映像は、引金を引く乗務員の実体験をありのままに伝えるものだったのです。

本土空襲マップを見ると、

1944 年 11 月 24 日は武蔵野・中野区・江戸川区と横須賀の 2 都県 4 カ所で死者 65 名
1944 年 11 月 25 日～1945 年 3 月 19 日は 22 都府県 59 カ所、死者累計 14 万 4170 名
1945 年 3 月 20 日～1945 年 6 月 16 日は 30 都道府県 104 カ所、死者累計 18 万 3259 名
1945 年 6 月 17 日～1945 年 8 月 15 日は 45 都道府県 237 カ所、死者累計 45 万 8314 名

です。

ここで初めて北海道が空襲を受けました。日本軍によるハワイ・真珠湾攻撃は 1941 年 12 月 8 日でした。広島への原爆投下は 1945 年 8 月 6 日、長崎は 8 月 9 日でした。

ガンカメラが記録した映像はアメリカ国立公文書管に保管され、中でも機密文書「戦闘報告書（Action Report）」には、どれだけの攻撃を行い、どれだけの損害を与えたかを記録した約 2 万ページに及ぶものです。（本土急襲全記録（NHK スペシャル）より）

第 6.2 節　戦争が子供を親や家庭から引き離す　　2023 年 12 月　第 71 号

6.2.1 三宿（みしゅく）国民学校生（N・E 氏）の回想

三宿国民学校の疎開先は長野県東筑摩郡里山辺村湯の原温泉（現在の松本市）で、寿喜本、嘉登屋、和泉屋、丸中、湯端屋、東中屋旅館を宿舎としました。学童 3 年から 6 年まで 436 人、引率の先生は 9 人、寮母 17 人、作業員 18 人は 1944 年（昭和 19 年）8 月 13 日に出発しました。

1945 年（昭和 20 年）2 月末、卒業を控えた 6 年生が帰京しました。同年 4 月 11 日、県内のより安全な地へ再疎開をしました。上伊那郡伊奈町、辰野村、冨里村、朝日村、上野村、西春近村の寺院や公会堂に分散しました。学童 222 人、職員 19 人でした。

敗戦後、10 月 17 日から 3 回に分かれて帰京し、11 月 9 日に終わりました。帰った東京は一面の焼け野原で、学校は 1945 年（昭和 20 年）の 5 月 25 日の米軍機の空襲で、東南隅の 6 教室を除いてすべてを消失しました。

夜行の疎開列車に乗って東京を後にして、48 年が経ちます。住み慣れた東京、家族と別れて、いつ帰れるかもわからない出発でしたが、親の悲しみをよそに元気でした。翌朝松本駅に着き、路面電車（松本電鉄）に 20 分ほど乗り、疎開地里山辺村に着きました。里山辺村は山と畑に囲まれ、北アルプスの連峰も望める静かなところで、地味な温泉旅館がゆるやかな坂道を挟んで並んでいました。6 つの旅館が宿舎になっていましたが、そのどれにも 3 年から 6 年までの男女が入りました。宿舎は本部の寿喜本旅館を中心に近接していました。起床から消灯まで細かい日課による規則正しい生活が始まりました。朝礼時の乾布摩擦、上半身裸の歩く訓練は、「三宿の裸部隊」と評判になりました。

宿舎で勉強しました。6 年は嘉登屋旅館で宮川房夫先生から、和泉屋旅館には 4 年生が集まって寺島正枝先生から教わると言う形でした。「座学」で国語と算数が中心でした。地元の清水国民学校が受入れ校でしたが、行事の時何回か登校しただけでした。運動会にはリレーに選手を出して参加しましたが、清水国民学校の先生や学童、村の人達との直接の交流は有りませんでした。

食事は宿舎ごとに調理されました。盛り切のご飯に少量の野菜が中心でした。待ちきれず台所へ偵察に行き、配られたご飯の量を素早く前や横のそれと比べ、一粒も残さずに真剣に食べました。おやつのリンゴは芯までかじり、炒り豆（大豆）は数えて分けました。ワカモト等の薬も舐めました。農家の庭先に干してあった柿の種をやたらに口に入れて、病院に運ばれた男の子もいました。お風呂は決められた時間に、温泉に入りました。ぬるい温泉で、旅館の宿泊客の他に外からの入浴客も有りました。

信州の冬は寒く、雪はあまり降らず、軒先から「つらら」が 30ｃｍ、50ｃｍと下りました。零下 10℃以下の朝も有りました。雑巾掛けをする足元からバリバリと凍りつきました。燃料も不足していました。炬燵に入っても、手も足も首も暖まりませんでした。背中を寒い風がスウスウ吹抜けました。その冷たさは、親元から引き離された寂しさ、決められたもの以外に何一つ口に出来ない飢え、24 時間、子供たちが同じ部屋で寝食を共にする緊張

感、生存競争に一人で耐える辛さからも来ていました。手紙は先生の検閲が有ったから、親に訴えることは出来ませんでした。仲間外れ等のいじめのひどい宿舎や班（部屋）もあり、今でも「疎開のことは思い出したくない。どんな集まりにも出たくない」という人もいます。

年越しの御馳走が一人ずつ膳に並んでいて歓声を上げたこと、正月に村の人が 2、3 人ずつ家に招いてくれて、お腹一杯食べたこと、その夜の炬燵の熱さ、映画「次郎物語」を見に行ったこと、松本城の見学、宿舎の人達の温かさ、寮母さんの親身な心遣い等も忘れることが出来ません。が、子供が自分の住んでいた世界、親や家庭から大きな力（戦争）で引き離されることがどんなに大変なことか、50 年経っても、その傷は消えないのだと思います。

人生を豊かに（雑学のすすめ）　【徳川家康の天下統一の裏に「鶏肉」あり？】

徳川家康の時代の平均寿命は 40 歳程度でしたが、家康は 74 歳まで生きました。健康寿命と平均寿命の差は約 10 年有ると言われていますが、家康は 65 歳で子供を作り、70 歳を過ぎてからも水泳を楽しんだほか、死の 1 年前に大坂夏の陣に出陣し、死の 3 か月前に鷹狩り（鷹を使って獲物を取る）をしています。鷹狩りには、軍事視察・訓練、民情視察、身体鍛錬等の目的が有りました。一汁一菜、一汁二菜の粗食はその土地の食料生産の活性化にもつながり、漁民、農民、庶民の経済生活に潤いをもたらしたと考えます。

粗食を心掛けたとはいえ、動物性たんぱく質を食べなかったわけではありません。当時は、仏教思想の影響が強く、四つ足の動物は食べてはならないとの風習があったので、家康は「鶏肉」を食べていました。鶏肉の腿（もも）肉や胸肉、兎の肉は牛や豚と比べカロリーが低く、脂質も低いのです。たんぱく質の成分量も高く、高齢者に適切な食材です。

また、鳥の胸肉に含まれるカルノシン、アンセリンには、筋肉に溜まる乳酸（疲労物質）の生成を抑制したり、乳酸の分解をスムーズにしたりする効果があります。だから家康は、どの武将よりも戦場では疲れ知らずだったのでしょう。天下統一をはたした家康、その裏に鶏肉の存在があったと言っても過言ではないのです。

家康は中国文化にならい、冷たい水は口にせず、日頃からお湯を飲んでいました。うどんが好物で、夏でも温かいうどんを食べていたそうです。

（女子栄養大学客員教授　松尾鉄城から）

耳寄り情報　今まで見せてきた

薬師寺に入って 4 か月目、ある法要の準備を任されました。努力をしたにもかかわらず、香炉の向きと供花（くげ）の数種類が間違っていました。兄弟子から参拝者の前でひどく怒鳴られ、悔しさのあまり「教えてもらっていない」と反論しました。

それに対して兄弟子が一言、「今まで見せてきた」。虚しさだけが残りました。教えてもらっていなかったのではなく、私が学ぼうとしていなかったのです。心が他所を向いていたのです。

（薬師寺　人気僧侶大谷徹奘（てつじょう）より）

（画像は Yahoo Japan から引用）